

2019年10月28日

各位

オンコセラピー・サイエンス株式会社

食道がん患者を対象としたがん特異的ペプチドワクチン S-588410 に関する
探索的研究成果発表のお知らせ（第57回日本癌治療学会学術集会）

2019年10月25日、第57回日本癌治療学会学術集会にて、当社が塩野義製薬株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：手代木 功）にライセンスアウトしているがん特異的ペプチドワクチン S-588410 に関する探索的研究成果の口演発表（演題名：がんペプチドワクチン作用機序解明を目的とした探索的臨床試験）が行われました。

発表の主旨は先日の欧州臨床腫瘍学会年次総会にて行われたポスター発表と同様でございますので、以下 URL をご参照ください。

<2019年10月1日付けプレスリリース>

「食道がん患者を対象としたがん特異的ペプチドワクチン S-588410 に関する探索的研究成果発表のお知らせ（2019年欧州臨床腫瘍学会年次総会）」

https://www.oncotherapy.co.jp/wp-content/uploads/2019/10/191001_01.pdf

【参考情報】

S-588410は、食道がんにおいて発現の亢進が認められるがん精巢抗原（DEPDC1, MPHOSPH1, URLC10, CDCA1およびKOC1）に由来する5種類のHLA-A*24:02拘束性ペプチドからなるがん特異的ペプチドワクチンです。現在、日本において食道がん患者を対象とした第III相試験が進められており、昨年3月には患者登録が終了しております。

さらに、塩野義製薬株式会社は術前のS-588410の短期投与が腫瘍浸潤CD8陽性Tリンパ球の数や腫瘍組織におけるPD-L1の発現に与える影響を評価する目的で、食道がん患者15名を対象とした第I相試験を実施いたしました。2019年9月末の欧州臨床腫瘍学会年次総会に続き（2019年10月1日付けプレスリリース）、この度当該第I相試験の結果が日本癌治療学会学術集会の会長企画シンポジウムにおいて発表されました。試験結果の一部（TCRレパトア解析）は、当社と塩野義製薬株式会社との共同研究によるものです。

【研究成果の概要】

ペプチドワクチンによって、細胞傷害性CD8陽性Tリンパ球（CTL）が体内で誘導されることが知られていますが、腫瘍微小環境にどのような影響を与えるかについてはほとんど明らかになっていません。そこで当該第I相試験におきまして、S-588410投与前後の血液および腫瘍組織に対する解析が行われました。

試験に登録された15名の方すべてにおいて、S-588410投与後にペプチド特異的なCTLの誘導が認められました。また、腫瘍組織におけるCD8陽性細胞、グランザイムB産生CD8陽性細胞、PD-1発現CD8陽性細胞およびPD-L1発現細胞の密度が増加しました。さらにS-588410投与後の血液および腫瘍組織に存在するTリンパ球のT細胞受容体（TCR）を調べた結果、投与ペプチドを認識するTCRが検出されました。

以上の結果は、S-588410投与によって腫瘍へ浸潤するCTLが誘導され、腫瘍微小環境におけるPD-1発現CD8陽性細胞やPD-L1発現細胞が増加したことを示唆します。これらはS-588410と抗PD-1 / PD-L1抗体の併用による相乗効果の可能性を示すものです。

以上